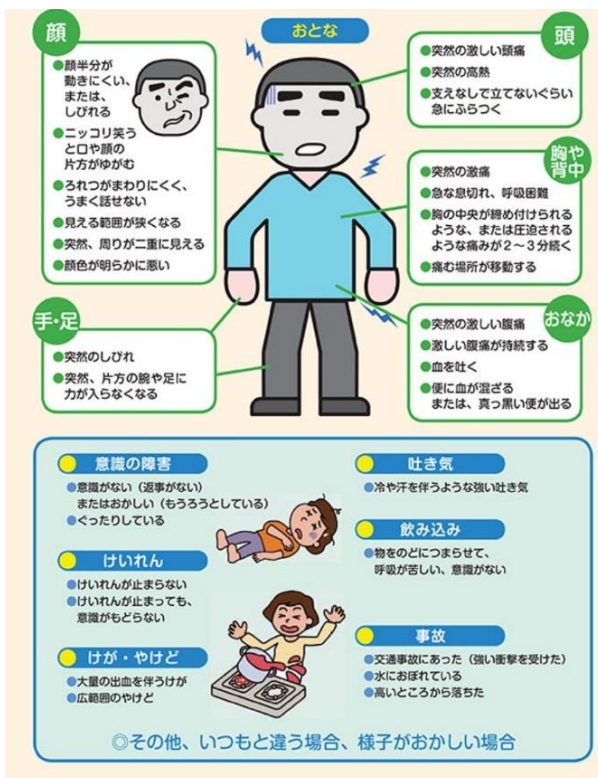


救急外来について

当院の救急外来は24時間365日体制で診療をしています。困ったときに頼りになる救急外来ですが、どんな症状の時に受診したらよいのでしょうか？



救急受診が必要な場面は、頭や胸やお腹や背中などの生命をつかさどる重要な部分に、突然・急激に症状が現れた時です。身体的重要臓器に急に症状が発症したときは、緊急性の高い病気であることがあります。突然の頭痛はくも膜下出血などの脳内出血、顔や手足の半分が急に動かなくなったり、しびれたりする症状は脳梗塞の症状の可能性もあります。急激な胸の痛みは心臓からくる痛みのことが多く、心筋梗塞などの心臓の重篤な病気が考えられます。お腹の症状は、腸閉塞や腹膜炎、腹部大動脈の破裂などの緊急度の高い病気が考えられます。高齢者の方は、高い熱があり、呼吸症状もあるときは、重篤な感染症である可能性もあるので、早めに受診した方がよいでしょう。

政府広報オンライン 救急車を呼ぶのはどんな時より抜粋

重要臓器の症状であっても、1週間前から頭が痛い、3日前から胸のあたりがむかむ

かする、最近手に力が入らなくなったなどの症状は、急いで救急外来を受診するのはなく、平日の外来(かかりつけ医)に受診していただき相談するのがよいでしょう。必要に応じて紹介状をかいていただき、総合病院等を受診してください。

ケガなどの外傷の時は、止血をしているのに出血が止まらない時や意識障害を伴う、頭部打撲、変形のある骨折、広範囲の火傷などは、救急外来を受診した方がよいでしょう。

救急外来は、24時間365日診察できるという良いところもありますが、いろいろと制約もあります。救急外来では、治療を急がないと命に関わる患者を優先して診察します。当院の救急外来は、当直医師が病棟と救急外来を兼務しているため、病棟での急変時や重症患者の対応時、緊急で治療の必要でない患者さんは、診察までの待ち時間が長くなる場合があります。また通常の外来診療と違い、検査や投薬もある程度制限があります。受診をするときは、

かかりつけ医から処方されている薬の情報（お薬手帳など）や、病状のことがわかる方が一緒に来院してください。

地域の皆様にとって、いざというときに頼りになる救急外来であるよう、日々対応していきたいと思います。ご理解をお願いいたします。

【救急看護認定看護師 奥村 佳恵】

